

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 1 回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会
開催日時	平成 2 9 年 6 月 2 7 日（火） 1 3 時 3 0 分～1 5 時 3 0 分
開催場所	高松市役所 1 3 階 大会議室
議 題	(1)瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組事業 の評価等について【K P I（成果指標）の設定】 (2)その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上記理由	
出席委員	嘉門会長、松岡副会長、石田（雄）委員、佐野委員、三宅委員、三井委員、宮本委員、森山委員、吉田委員、木村委員、竹内委員、糸委員、石田（良）委員、多田委員、堀口委員、菅原委員、寺嶋オブザーバー
傍 聴 者	1 人 （定員 5 人）
担当課および 連絡先	政策課（8 3 9－2 1 3 5）

会議経過及び会議結果

会議の概要は、次のとおり

議題（１）

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組事業の評価等について【K P I（成果指標）の設定】

（会長）

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組事業の評価等【K P I の設定】について、事務局から説明いただきたい。

【別添資料により、「連携中枢都市圏における成果指標【K P I】の設定」について事務局から説明】

（会長）

質問、意見等があれば、積極的に御発言いただきたい。

次に、連携協約項目「圏域全体の経済成長のけん引」に関する事業の K P I について、事務局から説明いただきたい。

【別添資料により、「連携協約項目「圏域全体の経済成長のけん引」に関する 1 3 事業の K P I について事務局から説明】

（会長）

圏域全体の経済成長のけん引に関する事業内容、K P I について、質問、意見等はあるか。

（委員）

N o 4 「国内誘客促進事業」について、2 0 2 5 年には団塊の世代が全て 7 5 才以上になってほぼ行動できなくなると言われている中で、K P I に設定している「市内の主な観光施設等利用者数」の平成 3 5 年度の目標値 6 6 4 万人は、高すぎるのではないか。

一方、N o 6「海外誘客促進事業」に関しては、近年、中国の富裕層などの観光客が増加しているように思う。受入れ先の宿の問題等課題はあるが、今後取り込んでいくチャンスがある分、K P Iとして設定している「香川県内外国人述べ宿泊者数」の35年度の目標値67万8千人については、もう少し高めに設定してもよいのではないか。

(会長)

団塊の世代が動かなくなるとは言われているが、まだまだ皆さん元気だと思う。今後10年先くらいまでは高い目標値を設定していてもよいのではないか。特に観光は本圏域の中でも重要な事業なので、力を入れていただきたい。N o 5「観光プロモーション事業」についてK P Iの評価対象外としているが、評価するものがないのか。

(委員)

アートせとうち、うどんブームなどでプロモーションを周辺の施策で活性化してきたので、今年度で事業を終了し、今後、新しい形の取組を模索すると聞いている。

(会長)

N o 5「観光プロモーション事業」が今年度で終了するというのであれば、連携事業から除外するのかそれとも新しい事業を組み直すのか。

(事務局)

廃止も含めて、見直しを検討している。

(委員)

今までのやり方のプロモーションについては、今年度で終了するが、新たな展開については、検討中と聞いている。

(会長)

N o 6「海外誘客促進事業」のK P Iについて、「香川県外国人延べ宿泊者数」を設定しているが、連携市町以外の県内の宿泊者数を含めた数値を設定しているのか。

(事務局)

連携市町のための外国人延べ宿泊者数の統計は取っていないので、県内の外国人延べ宿泊者数を設定している。

(会長)

K P Iの最終目標年度は通常35年度で設定しているが、N o 8「瀬戸内国際芸術祭推進事業」については、なぜ31年度で設定しているのか。

(事務局)

瀬戸内国際芸術祭は開催年が決まっており、34年度の開催は未定であるため、31年度で設定している。

(委員)

N o 9「新たな観光プランの企画、販売等」について、K P Iを「市内の主な観光施設等利用者数」としているが、これは既存の観光施設のことだと思われる。今まで、観光地として捉えられていなかった新たな観光施設の利用者数を含めると、N o 9のK P Iにふさわしいのではないか。

(事務局)

事業の進捗がより図れるようなK P Iが設定できるかどうかの検討を担

当課に依頼する。

(会長)

N o 1 3 「観光バリアフリーのためのUDマップ作成・活用事業」について、K P I 「UDマップ掲載HP閲覧数」としているが、目標値が設定されていない。推定アクセス数などを設定することはできないか。

(事務局)

現時点でK P I の設定が可能か、再度検討を行いたい。

【別添資料により、「連携協約項目「高次の都市機能の業績・強化」に関する6事業のK P I について事務局から説明】

(会長)

N o 1 6 「医療職員の交流等」のK P I について、「地域医療連携カンファレンスの開催数」を最終年度に1回としているが、27年度実績より少ないのはどうか、検討いただきたい。

(会長)

N o 1 7 「ICカードを利用した公共交通利用促進事業」のK P I について、「公共交通利用促進事業実施自治体数」を最終年度に4自治体としているが、連携する市町は高松市も含めて6自治体であることから、目標値は6自治体に設定すべきではないか。

(事務局)

圏域内の公共交通サービスについて、ICカードを活用し、高水準で均一なものとして提供することが事務概要であり、システム対応できていない2町については、目標値から除外している。

高松市で実施しているバスと電車の乗継割引、高齢者の運賃割引については本市で財政負担をしている状況である。連携市町が財政支援について検討しなければならないので、協議は続けていくが、現状はハード面で連携可能な4自治体を目標値としている。

(会長)

連携しているのであれば目標値は6自治体として設定できないか検討していただきたい。

(委員)

N o 1 8 「大学等と連携した、将来の圏域を担うリーダーの育成」のK P I について、「大学等との連携・協力事業数」を最終年度に130事業と高い目標値にしているが、達成できるのか。

(事務局)

本市が掲げる若者に選ばれるまちづくりを進めるためにも、大学等との連携は重要であり、その達成を目指していきたい。

(会長)

N o 1 8 「大学等と連携した、将来の圏域を担うリーダーの育成」とN o 1 9 「産学官連携推進事業」は、同じK P I を設定しているが、N o 1 9 には産業界も含まれていることから異なるK P I を設定すべきではないか。

(事務局)

K P I の設定内容について再度検討を行いたい。

(委員)

N o 1 8 「大学等と連携した、将来の圏域を担うリーダーの育成」について、具体的にどのような育成を想定しているのか。大学生は通常4年間で卒業すると思うが、卒業後も地元に残り、どのように連携していくのか。

(事務局)

現在、大学で実施している官民協働海外留学支援事業に行政として参画したり、香川大学の地域マネジメント研究科に職員を派遣し連携市町の魅力をPRすることで、若者の人材育成の一助になっていると考えている。今年度からは、移住・定住方策の充実も図っている。

(委員)

将来的に地元に残り、リーダーとなれるような人材を育てていただきたい。

【別添資料により、「連携協約項目「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」に関する52事業のKPIについて事務局から説明】

(委員)

N o 2 5 「地域包括ケア病棟」設置事業のKPIについて、「在宅復帰率」70%を最終年度の目標値としている。高すぎるように思うが、目標値としては適当なのか。

(事務局)

地域包括ケアを推進していく中で目標達成に向け努力したい。

(委員)

N o 3 1 「徘徊高齢者保護ネットワーク」について、先日、観音寺市の同ネットワークより情報提供があり、徘徊高齢者が高松市にて、発見されるという事例があった。どこで発見されるか分からないので、搜索を無理だと思わず、100%発見するというKPIを設定するのは素晴らしいと思う。

また、N o 2 9 「認知症ケア推進事業養成講座の受講人数」についても、認知症の方に苦手意識を持たず、適切な対応をすれば、日常生活も問題ないので、認知症について理解のある人を増やすのは素晴らしいと思う。

(委員)

N o 4 1 「史跡・遺跡の調査研究及び発信」のKPIについて、「圏域内の史跡・遺跡の調査研究についての講座等参加者数」6,500人を最終年度の目標値としているが、団塊の世代が増加し、昨今の城ブームなどもあるので、目標値をもう少し高く設定できないか。

(事務局)

KPIの設定内容についての再検討を担当課に依頼する。

(委員)

N o 5 1 「災害時相互応援協定」やN o 5 5 「地域防災対策事業」とも関連するが、毎年度、連携市町ごとに災害訓練を1回以上実施するなどの目標はあるのか。

(事務局)

N o 5 5 「地域防災対策事業」の中で、大地震を想定した震災対策総合訓練を実施することとしている。

(会長)

N o 5 1 「災害時相互応援協定」、N o 5 2 「香川県消防相互応援協定」、N o 5 3 「高松空港及びその周辺における消火救難活動に関する協定」、N o 5 4 「消防業務の事務委託」については、協定を結ぶだけが事業ではなく、連携して災害等に対応するという趣旨に立って、少なくとも年に一度は災害訓練を実施する等の目標値が設定できないものか。

(事務局)

災害訓練が重要であるとのこと指摘を頂いたことについて、担当課に伝えたい。ただし、N o 5 1 ～N o 5 4 については、万一、災害が発生した際に近隣の市町が連携するという事業なので、K P I の設定には適さないと考えている。

(会長)

連携してサポートするためには、災害がどこでどれくらいのレベルで起こるかをきちんと想定することが重要である。想定した上で訓練をしておくことが地域の安全に繋がる。

(事務局)

災害の発生を想定し、連携市町での訓練も重要というご指摘については、担当課に伝えたい。ただし、K P I の設定については、災害が起ることを想定しての目標設定というのは馴染まないとして、評価対象外としている。

(会長)

N o 5 6 「一般廃棄物の処理・処分に関する業務」、N o 5 7 「し尿処理に関する業務」についても、廃棄物の低減などを目標値に設定できないか検討していただきたい。

(会長)

N o 5 8 「環境学習等推進事業」のK P I 「環境学習講座参加者数」、N o 6 1 「不法投棄対策事業の推進」のK P I 「不法投棄撲滅ふれあいクリーン作戦参加者数」について、目標値の見直しはできないものか。

(事務局)

K P I の設定内容についての再検討を担当課に依頼する。

(委員)

N o 6 7 「自然体験等を通じた住民の交流の促進」について、民間団体が実施するイベントについて、ホームページに掲載することは可能か。

(事務局)

趣旨に合うものであれば、掲載する方向で検討したい。

(委員)

N o 6 8 「移住・交流促進事業」設置事業のK P I について、最終年度に「圏域市町全体での社会増」1, 8 5 0 人と高い目標としているが、目標値は適当か。また、圏域内に香川県外からの移住者が増加するように取り組んでいただきたい。

(事務局)

香川県外からの移住・定住者を呼び込めるよう努力したい。また、K P I については、たかまつ創生総合戦略においても、3 1 年に社会増1, 0 0 0 人を目標値に置いていることもあり、最終年度の3 5 年度としては社

会増１，８５０人を目標値に置かせていただいた。

(委員)

本制度は必要な自治体間の連携を進めていく中で国に支援を求めていくという提案型の制度である。制度の趣旨について、担当課の職員は理解していると思うが、担当課以外の職員については理解が浸透していないように思う。Ｎｏ６９「人材育成事業、合同研修等の実施」にもあるように人材育成を進めていただきたい。

(事務局)

行政職員や地域のリーダー育成は非常に重要であると考えていることから積極的に進めていきたい。

議題（２）その他

(事務局)

今後、８月２９日に第２回のビジョン懇談会を開催し、取組事業の評価・今後の取組の拡充等の意見を頂く予定で、頂いた意見を参考に、本市と連携市町の関係課の間において、新規や拡充する具体的な事業について、調査や取りまとめを行いたいと考えている。

また、１１月以降に、圏域の首長・議長で構成される推進委員会を開催し、来年度の新規・拡充等の取組事業を承認いただいた後、年度末頃を目途に都市圏ビジョン変更版の策定を予定している。今後ともご協力をお願いしたい。

(会長)

本日の会議は、以上をもって終了する。